



横浜銀行 ロンドン駐在員事務所

週間トピックス(2017.12.08)

欧州に習う休み方改革

- 日本では人材確保が困難になり、「働き方改革」の意識の浸透とともに、年末年始には小売・サービス業も一部、休業とすることも出てきており、年中無休を見直す動きがあります。
- 先日、エクスペディア・ジャパンが発表した有給休暇の国際比較調査では、日本の有給消化率は50%、2年連続の最下位だったそうです。
- フランスやスペインでは有給休暇の取得率は100%、長期の休暇を楽しんでいます。
- 「働き方改革」とともに「休み方改革」も、日本ではもっと推し進めていく余地がありそうです。

1. 日本で広がる年末年始の休業

- 年中無休で営業を続けてきた日本の外食産業の間でも、人材確保が困難になり、従業員のワークライフバランスを充実させる意味でも、年末年始に休業日を設ける動きが出始めています。
- ファミリーレストラン「ロイヤルホスト」は、9割の店舗で元日を休業とするほか、「大戸屋」でも直営店の半数以上で大晦日と元日を休業とするそうです。
- 英国では、クリスマス前後には多くの人々がクリスマス休暇に入り、25日にはほぼすべての小売店が店を閉めます。公共交通時間は、クリスマス前には運休となる路線も出始め、25日はすべて終日運休という徹底ぶりです。ですから、日本のように休みづらい、ということもなく堂々と休めますし、休日に仕事を気にすることも少ないように感じられます。

【クリスマスシーズンで賑わうロンドンの繁華街】



【クリスマスにはすべての公共交通機関が運休に】



2. 有給休暇の取得が進まない日本

- ▶ 先日、エクスペディア・ジャパンが発表した有給休暇の国際比較調査では、日本の有給休暇取得は10日/20日でその率50%、2年連続の最下位だったそうです。フランスやスペインでは30/30日、100%の取得率です。
- ▶ 同調査では、有給休暇に罪悪感を感じる人の割合も、日本は63%とトップで、イタリアの19%、スペインの18%とは大きな差があります。休暇中に仕事のメールを見てしまう人も、日本は22%でトップ、イタリアの9%、オーストリアの6%を見ると、休暇の過ごし方にも大きな違いがあるようです。

3. 英国の休暇日数

- ▶ 英国の有給休暇取得率は77%（2010年、Reuters調べ）とのことですから、有給休暇取得日数は20日×77%=約15日間となります。
- ▶ とはいえ、英国の祝日 Bank Holiday は年間8日間しかありませんから、有給休暇取得日数の平均値15日間と合わせて23日間が、英国の年間休暇日数ということになります。
- ▶ 日本の有給休暇取得日数は平均10日間ですが、祝日が17日間あり、年間休暇日数は27日間と、英国以上に休暇を取得できている計算になります。

4. まとめ

- ▶ 理論上は、英国より休みの多い日本ということになりますが、長期休暇の取りにくさや休暇中にもメールをチェックしてしまうなど休暇の過ごし方にはまだ改善の余地がありそうです。
- ▶ 日本の外食産業が年末年始に休業日を設け始めたことで、休暇の取りやすさや休暇の質の向上につながっていくことを期待します。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。